

19 左官 Plastering



石膏の造形美と塗り壁の精巧さを魅せる

金鏝(かなごて)と木鏝(きごて)などを駆使して壁の表面をデザインする左官技能者。その歴史は古く、飛鳥時代まで遡ります。近年、土壁を施した家屋は少なくなりましたが、天然素材の塗り壁は断熱性や保温性、防火性などの優れた機能を持つことから安心、安全、健康な素材として再び注目を集めています。競技では、墨出し作業に始まり、軽量鉄骨を組立て、石膏ボードを取り付け下地を作成します。置き引き作業を経て出来上がったモールディングを切断加工して取付けます。さらにコーナー定木を取り付けた後に、厚塗り、薄塗り仕上げを施し、最後に自然素材を使用した自由課題で感性を表現します。事前に公表された課題図をもとに、石膏の造形美と鏝塗りの技能、仕上がりの美しさ、精度の正確さなどを競います。



無駄のない俊敏な動きで鏝を使いこなす！ 日本伝統の匠の技

置き引き作業は焼石膏の性質を熟知した上で、いかに効率よく丁寧な作業ができるかがポイントです。作業台に水で溶いた焼石膏を流し、どのタイミングで型を通すか、瞬時の判断で造形品の良否が決まります。無駄なく素早い動きで指定寸法に合わせて切断、加工したものを取り付けたモールディングの接合部の見ばえが求められます。日本の風土に適した自然素材「漆喰」や「珪藻土」の鏝塗りの技を必要とする今年の課題は、多能工としてもより実践的な構成となっています。

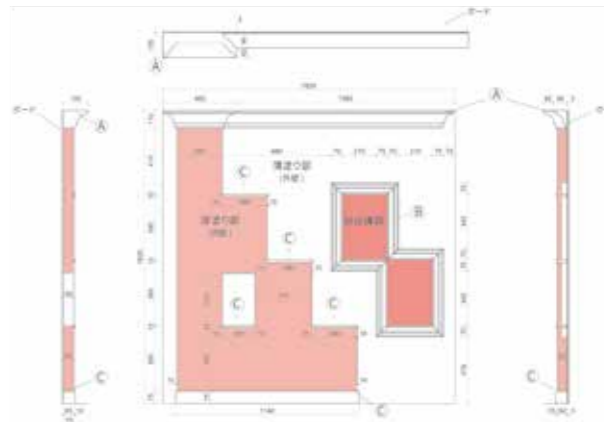
むらなく美しく仕上げます！



競技について

競技時間 2日/10時間

課題作成は、2工程に分けられたモジュール形式です。2日間、計10時間で競います。1日目の(モジュール1)では、課題図面をもとに軽量鉄骨を組立て、石膏ボードを取り付けて下地を作成します。厚塗りに中塗りを施し、作成した引型で置き引き作業を行います。2日目の(モジュール2)では、1日目に行った壁面への上塗りとモールディングの取り付け、接合部の補修、自由課題を経て全工程を終了します。



参考: 第58回技能五輪全国大会 競技課題

競技職種と生活との関わり

左官とは、建物の壁や床、天井などを、こてを用いて塗り上げる技能者です。左官は、ほぼあらゆる建築現場で活躍しています。現場での主な仕事は、こてを使って壁に材料を塗り込むことですが、その工程は非常に多く高度な技術が必要で、下地の養生、材料の調合、下塗り、中塗り、仕上げ塗りを経て、ようやく完了します。新築はもちろん、リフォームでの出番も多いものです。昨今、改築需要は増えており、左官のニーズも堅調です。

2019年大会の成績

第57回技能五輪全国大会出場時点 / 2019年11月

金	(株)濱崎組	吉村 静流さん(愛媛県)
銀	ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科	石川 真由さん(埼玉県)
銅	(株)菅野プaster工業	加藤 諒さん(山梨県)
敢闘	ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科	森内 花音さん(埼玉県)
	中部大学 人文学部	岩田 徹崇さん(愛知県)
	ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科	島本 裕美子さん(埼玉県)

金賞
吉村 静流さん
(株)濱崎組

自分なりに頑張っていると、結果は必ずついてきます！

2019年大会
競技課題



置き引き作業をするための型
石膏モールディングを形作る工具

コーナー定木
壁の出角部を補強するための部材



こて
壁に「しっくい」などを塗るための工具

